

素人小説

第 20 回 「期待を込めた激励/若手人財
の育成」



株式会社 BSO

1 第20回「期待を込めた激励/若手人財の育成」

- ・若手社員の挑戦

- ・若手社員からの問題提起

- ・全社員に伝達

- ・ポジティブな音大意識を持ち素晴らしい人材への成長を期待したい

「若手社員の挑戦」

竹内君は、途中採用で入社2年目であるが、株式会社ビジネス企画研究所の若手エースの一人である。彼はフランチャイズチェーンビジネスなどのビジネスモデルを開発し、軌道に乗せる専門家として駆け出ししている。

ビジネス企画研究所の高橋社長は彼のさらなる活躍に期待している。彼の仕事に直接的には関係はないが、IEを学んでもらうため社内研修に参加させることにした。IEは産業社会で生活するベーシックなものの一つでもある。社内研修とはいっても、付き合っている他企業に実習地になってもらい、その企業の社員と一緒にIE手法を用いて、観測から分析、そして報告書をまとめ上げて発表するという合宿形式の実地訓練である。高橋社長は、どのようなことを学び取ったのか、彼からの報告を心待ちにした。

「若手社員からの問題提起」

翌日、竹内君から早速メールが届いていた。そこには、研修で学んだこと以外に、以下のようなことが書かれていた。

「参加者の一人として実施要領の改善をお願いしたく、あえて言わせてもらおうと思います。研修中のスケジュールがハードで、帰りの電車に乗っていると、いつのまにか眠っ

てしまい、気付いたら3駅も乗り越してしまいました。最終日にも、報告書の作成中気付いたら一瞬眠ってしまいました。自分だけかと思いきや、周りを見てみるとコックリしている人を何回も見ました。こんなにハードなスケジュールではみんな能力を出せているようにも思いません。私以外にも参加者はみな日常の業務が忙しく、予習をせずに研修に参加していると思います。

その中で入力や分析に時間をとられ、寝られないのは能力がないからでしょうか。我が社で言う『自分で考え自分で実行しろ』でしょうか？私は講師に導いてもらったおかげで、何とか皆よりはいい報告書ができたように思います。

IEの考え方を学んでもらうことを第一にするのなら、報告書の表紙や観測計画書の書式は統一して事前に作って入力だけにし、今回、先生が私にしてくれたように、分析をして結果を導くだけでも、かなり勉強になるのではないのでしょうか？ IE研修は今後も社内で継続されると思いますので、検討した方がいいと思います。」

「全社員に伝達」

高橋社長は色々な意味で驚いた。すぐに彼に返事を送ろうとしたが、しかしこの問題は社員全員に伝えたい内容であったため、あえて社内用電子掲示板で発言することにした。

「ポジティブな問題意識を持ち素晴らしい人材への成長を期待したい」

高橋社長はこう返事をした。

一．期待を込めて

〔中略〕 以上のように竹内君から報告を受けました。

竹内君の意見はもっともな意見だと思えます。また、このような問題提起が出来たということは、ネガティブな見方をポジティブに変えることが出来れば、すぐにもIE的に作業が出来る人になれば、効率的な仕事のできる達人になればそれで、ますます期待したい心境になります。」

二．IEは理想的な「3つのNO」に挑戦する

ところで、目的を効率的に果たすためには、科学的な手法をタイミング良く使い、計画を立てて考案することが重要であるということについては竹内君も理解出来ていることだと思えます。

IE手法は、IEを知らない人よりはるかに楽をして、求められている成果を出すことが出来るものです。最適な道具を使わず、また計画を立てず、事前準備段取りを怠ると、作業する時間はいくらでも過ぎてしまいます。夜遅くまで作業することが研修の狙

いではありません。逆なのです。研修の時間が終了するまでに、効率的な作業ができなければ、それは落第です。

ということから考えて貰えば分かると思いますが、竹内君が提案している対策案の方ではなく、問題提起しているような状況がなぜ起こるのかを考えるのがIEです。私達がしている仕事や作業の殆どはロスなのです。理想的なノータイム、ノーコスト、ノーマンパワーで目的を果たすことに挑戦するのがIEです。

三. 体感学習が必要なIE

このIEは「技術」というよりも「技能」と捉えた方が妥当でしょう。技能は、頭でだけ学んでも役に立ちません。頭と体と両方で学ばなければいけません。どのようにすれば成果が上がリ、効率的な作業が出来るかを科学的に考え編み出すことができます、そのトレーニングで体得するものの一つです。

頭で学ぶ方法は、知識として頭に残るような方法で学びます。一般に、感性とかコツとかニュアンスが大切なものなどといった類のものは、頭で学ぶだけでは十分でないようです。

IEは、それぞれの手法の意味と使い方をマスターすると同時に、どのようなときにど

のようなタイミングで使うかということがとても大切です。これは、頭で理解する範囲を超えていたり、適していないことが少なくありません。むしろ、勘とかコツを身に付けるには、経験とか練習とかいった（それも意図した、あるいは先生の指導のもとに）ことが必要で、いわゆる「体で学ぶ」ということが相応しいと言った方が良いでしょう。

ゴルフでもあまり練習せず、口ではシングル級と言われる人が実際には全くだめだと言う場合があるようですが、これも同じく技能として学ぶ領域のものなのでしょうね。こう考えると、私達の周囲には、技能として学ばなければならぬものが、結構あるようです。

四、考働力のつかない勉強などしない方がまし

勉強は、その人が持っている可能性を拡大し人生を広げてくれるものと私は捉えています。今回、竹内君が講師からやってもらった（なぜ講師が竹内君につきつきりになったかは君自身で考えることが必要です）ように、勉強の準備や段取りを色々準備してもらっては、その本質に接近できる勉強は出来難く、最悪、「形」だけを学習することになり兼ねません。それでは、技能は身に付かず、社会に役立つ考働出が来る人財にはいつまでたっても接近することが難しくなると思います。

我が社では確かに答えを与えません。これも考働出来る人財になってもらうことを考え

ての話だということは竹内君もお分かりでしょう。私達は、「学習」を先人の経験や研究結果などといった知的財産を貰うことであると捉えていますね。学習の中で、この意味が果たせるためには、教材や伝達者の講義は、あくまでも学ぶことの一部分であって全てではないということです。また、学ぶ側の学び方でどれだけ「貰えたか」が変わります。特に形などはこの場合どうでもよく、どこまで本質に接近出来たかが重要ではないでしょうか。

そのためには、例えば報告書の表紙や観測計画書の書式は統一して事前に作ってもらっておくといったような、学ぶに際して付帯する「余分なこと」、雑用、枝葉末節、といったことをどのように受け止めたかということも大きな意味を持っていると思います。要は、このようなことまで全て含めて研修なのです。

五. なせ、私達は効率を追求し続ける必要があるか

ところで話は一変しますが、今から話すことも大切なのでもう少し聞いてください。日本は現在、加工・貿易立国から、消費立国になりつつあります。消費立国では、今まで築いてきた財産を食いつぶすだけにしかならず、日本は成り立ちません。

一方、日本よりはるかに有利で、且つ適した加工・貿易立国として中国や東南アジアが成長しています。米国が「流通」立国、欧州が「生活文化」の創造社会、中国・東南アジ

アが世界の「生産基地」として世界が形成されつつあるときに、日本が果たすべき世界的役割は何なのでしよう。コレと言ったものがまだ見えません。世界的な役割が明確になり、その役割を果たせる国づくり、社会づくりができるまでは、兎に角生産国のリーダーとしての地位を確保することが必要です。そうでないと世界中の各国・各産業都市から日本は食い物にされることが必定です。

しかも、世界で一番人件費の高い日本では、中国人やベトナム人の作業効率より10倍も20倍も高くなければ彼らに持っていかれ、仕事は日本からなくなるのですよ。アメリカと比べても2〜3倍の生産性が高くなければとても成り立たないのです。100時間の仕事を6時間や8時間で出来るような工夫と智慧を出すことが我々には求められています。「このような産業人をどれだけ多く育てられるか」しか、今のところ日本の産業界にはなす術がないのです。

六. 考働力のない人の部下は可哀想

手取り足取りやってもらわなければならぬ人の部下になった人はどうなるのでしょうか。そんな人の下で働けますか。ロスが多く発生するような仕事をさせる上司の下で働けますか。

確かに給料さえもらえれば「どうでもいいや」という考えの人もいるでしょう。しかし、会社で勤務する時間は、お互いに人生のなかで最も多いのです。この時間を有童義に過ごせないとしたら、面白くないのは私一人だけなのでしょうか。

おわり